

天溪 2018 年「イタリアン オートルート 10 日間」

「イタリアンオートルート10日間」を7月10日～7月19日及び7月19日～7月28日の2回 続けて行いました。ミラノとジュネーブのほぼ中程に位置するイタリアの古都アオスタ、そこから少し西方に入った所に有り、他国と国境を接しないイタリア内国の最高峰グラン・パラディーゾ(4061m) 周辺をトレックしました。この地はイタリアで最も古い国立公園で、時の国王エメヌエーレ 3 世がこの王領を狩場からアイベックスなど野生動物の保護区に変えて国に寄贈、1922 年に指定されています。トレックはアオスタを中心に放射線状に延びる 4 本の谷を横に越える、一寸ハードな内容でしたが（一部交通機関利用）、素晴らしい山や花の景色が堪能できました。この地は美味しい食事と地場ワインも楽しめる所です。このツアーは参加者多数から前半、後半に分けて実施され、レポートは後半をまとめたものです。



(グリアレッタ氷河のモレーン 7/24 日)

○コーニュの谷からビットリオセーラ小屋へ

峠越えをするはずが天候悪化でビットリオセーラ小屋から少し登ったところで反転して山を下り、アオスタ経由で次の目的地へ。アオスタはローマ時代から地方交易の中心都市として栄え、多くの旧跡が残っています。

公共広場のローマシアター、アウグストゥスの凱旋門等々、空いた時間を使って市内観光を楽しみました。



○オローセの谷からレメン・ノートルダムの谷へ

グラン・パラディーズを直訳すれば「偉大なパラダイス」 まあ、天国と言った所でしょうか。白、黄、紫、色々の花が山の斜面一杯に咲き、名前通りの光景の中を進みました。いずれにしても花密度 200%、最高でした！



(グラン・パラディーズ 7/21 日)

(ウサギギクの間 7/21 日)



○レメ・ノートルダムからベッツィー小屋へ

残雪状態が悪いので峠越えを諦めタクシーで隣の谷へ。ベッツィー小屋は家族的雰囲気、山小屋としては設備・おもてなしも良く、ご機嫌な山小屋でした。翌日バサック・デーレ峠を越えて再びレメ・ノートルダムへ。歩くにつれて小屋から見上げていた氷河が近づき、そして眼下へ流れて行きました。この地はせいぜい 3500m前後の山並みですが、何故か標高のわりに氷河や残雪が発達していて、さしずめアルプスの冷蔵庫と言った所でしょうか。



(モンテビアンコ遠望 7/24 日)

(ベネボロ小屋 7/24 日)



○レメン・ノートルダムからシバソ小屋へ

7 月後半と言うのに結構残るアルペンローゼやウサギギク科の花に囲まれた谷あいを進み、超急なガレ場を登り詰めて峠越え。残雪や氷河も迫る登りは中々な物でしたが、その分爽快感も素晴らしいものが有りました。ここでは雷鳴も轟き、音が加わり臨場感も最高でしたが、雷鳴は何時、何処で聞いても嫌なものです。峠を越えて下った所に広大なお花畑が出現、峠越え・残雪&氷河・落石・雷鳴から解放され、まさにグラン・パラディーズ気分でした。



(満開のアルペンローゼ 7/25 日)

(圏谷を行く 7/25 日)



○シバソ小屋からボンへ

恐らくグラン・パラディーズとはこの地を指すのでわないか思えるくらい辺り一面に花で囲まれた圏谷状の丘陵を終着のボンへ向けて下りました。今年は花の状態が良かったのか、花の時期と合致したのか、運が良かったのか、いずれにしても欧州のツアーを続けて 20 年、花一面のこの景色には驚かされました。



(斜面一面の蓮華草 7/26 日)

(グラン・パラディーズ 7/26 日)



※逆走台風 12 号

帰国日の 7 月 28 日は逆走台風 12 号が伊豆諸島から東海道沖を西進、29 日午前 1 時、中心気圧 970hPa の勢力で伊勢市に上陸。その後も近畿、中国、北九州地方を西に進み、鹿児島の方で一回転してから中国大陸へ抜けて行きました。乗継空港のドーハで進路を確認すると正に私達が到着する午後 7 時頃に日本上陸を伺っている有様。これはフライトキャンセルかと思っていたら成田便、羽田便共に定刻通り出発し、ほぼ定刻通り無事到着。いよいよ台風までが変な動きを始めるなど、世は異常気象ですね。

このツアーを持って 2018 年夏季 前半迄終了です。夏季 後半からは「ツール・ド・モンブラン 10 日間」、「ピレネー国境横断ハイキング 10 日間」そして「紅葉カナディアンロッキーとオーロラ 9 日間」へと続き、更に晩秋は「エベレスト街道カラパタール 18 日間」をお伝えします。